



春江圖卷

名區小景二編

子集圖卷板

名區小景二編

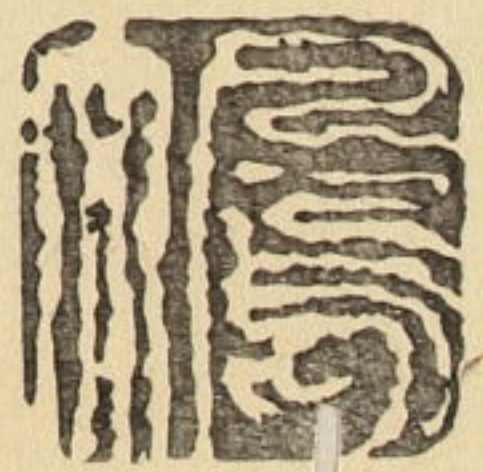


于俊志。客杭日記。客越志。蜀記。出蜀記。山水之爭。竟。二遊。觀。之。壯大者。也。出帖。所編。名區。之。錄。存。十。一。於。子。百。六。可。以。慰。志。也。之。甲。未。是。甚。序。序。春。江。來。告。以。稿。之。從。系。時。若。

疫方劇毒如辟。歸未激結
曰。思以空之。仍贅其外。居
以之責。

素永改元難言

小朴翁



訥齋宏書



名區小景序

山鷄尾張素國耳名高き區々は良なり
き〜紀の村母志良なり理を九鏡下
中郡〜足致く如く伊きく如く國々春江
ぬ〜の物〜名區小景と形序なり〜
冊子あり一多花出良なり八ヶ郡若海州

一書抄の終り

嘉永元年申れ夏

にち國一之宮

賀田秀蔭

納齋吳仙書

三十三

名區小景二編卷之上

柳原の霞

楊柳原頭望層々姑射城欲知奇絶處魚尾瑞霞明
朝日まはし珠のうへよりまをりて霞よなひく柳原うら
ゆききぬ柳の糸ももろくかすひみちふたれはれつ
まを原うらふしる柳原けさうきくんえりてふ
柳原やまきのいのほみより蒸やまのいろと引らん
かけうのりえてやけつらちん柳う原はかきこつら
いこの名のまはさる柳原よりふすむまのうらら
うらけこころれ糸の柳原かきこころのまねりも

謙堂

嘉寛

陸子

義成

意然

興達

森房

千春

おうとむる川をせやの夕桐をひくくそ。ハ柳をうりて
まゝらて泳きみづりのやまき系も風をうひくまくれ
柳系うすむまらふらんをそをいふよりさだの流をうけり
うづく。柳の系ふり。あは清波のこもまらうはあかん
柳系けさいよりふま柳乃大城をうけて。この系を
ま風よ。庭のあはをうひて。ゆゑこれ。ま柳此系
柳系。庭をうけて。清水口西。水。柳。まらう。ゆゑ
やふき系。岸の後に。織。機のぬき。庭の系を。あはる
柳。まらう。柳。ハ。まらう。柳。まらう。風。まらう。ひく。ハ。柳。まらう。りり
やあ。く。系。柳の系。ハ。庭。小。く。庭。の。衣。と。ま。く。深。り。れ
う。川。あ。ま。の。ま。ら。う。ハ。風。の。柳。系。庭。と。仲。の。細。引。と。ま。ら。う。

秀蔭
清英
正蔭
有豊
うら
龍天
龍屋
公彦
七五彦
壽彦
亞紅

三五二

樹やあや田と中ふりて。終かすみ
うり。山やまらう。に。う。す。む。伐。妙。――
ひくく。く。あ。田。吹。せて。終。う。す。み
ゆく。ま。れ。え。れ。り。と。け。て。あ。ら。な
柳。ま。も。あ。ら。ハ。あ。は。ま。れ。う。は。ま
塔。ま。ら。ぬ。人。の。は。れ。や。夕。か。ま。み
終。き。よ。め。ま。ら。う。終。音。や。か。す。む。中
た。れ。う。り。り。と。あ。す。ま。け。を。柳。系

梅間
鳥津
梅裡
思文
雷二
月奉
卓堂
恭壽

壹津雲雀

柳。機。の。ひ。ま。ら。う。を。ま。ら。た。て。ぬ。き。あ。す。く。み。た。く。あ。つ。の。系
ゆ。ぬ。と。あ。ら。う。ひ。ま。ら。う。あ。つ。の。系。の。あ。と。や。あ。ら。う。う。ら。う。ん

元久
大成



柳原



萱津里

稻生波の水鳥

うららかに萱津里のほとりにもかすかにあふる中を
 ぞたたくわりのいりてそそぎあつる萱津里のほとり
 葉をうつらつたの麻やまのうらあふるほとりのほとりも
 まきけはいさむいて揚る中を
 大川は津村や揚る雀
世にきくうらたて流る
 つまらぬとせせん
 似てるの飛て中を
 ちりくくのるも揚るほとり
 竹葉のうら揚るほとり
 人々と我おゆて揚る中
 宣子
 利恭
 千尋子
 黄山
 應知
 李曠
 西涯
 逸齋
 雷二

稻生渡



栗栖棧



三十三

栗栖の棧

水とハ君ウのうらみは湯川の流れてたつとすめり代うな
 こゝれ俾さけうあはれに別れし宿せの門よあきく水を
 あきゆれくは代うれいゝと里まわていのまゝうふあまを
 あくあふれてはまの流とせとまももあはれとあまを
 涙も水の流りもふいりせつられて答答をまひ
 うき鴨やまさとくけくあひや
 船乃と鳴くさぬなり 並ふ鴨

惟賢 荷菴 重宜 清章 便館 庭雅 半嶺
 和雄 良承 笹垣屋

多きも少きありけさの暮
三日月の子遊ぼうつ解き
掛所裏の月 一圓

一輪明月自猿投笑語聲高賣酒樓請見蕎花畦畔 義成

雪乾坤白盡廣寒秋

白雲飛盡露凝香水霧山烟雨渺茫誰識秋光與人 釋照朝

老可憐天外月中霜

後のそれ固きては山佛とていふやうして月を足さず 陸子

峯とていふを照らす月ハミカケる秋をうせハ 敬一

ふくあまのく照らす月をわけてたききやきくらん 千尋子

山の隈とていふより隈もくせきのみらるる月れ存ハ 甫岳

五七五

足後せハ月の名はくまもあうれ鳥の表ハるらて 七五彦

くまもあや月ハ彼名ハ標あハセ 喬柯

山際とていふく月や五位の夢 紫風

ふいふくく無りくもあうり乃月 朝音

よひ月やむと歩り乃月ハ山 吳樂

昔きくぬきよ知て病月見くれ 連彦

本も草もさきくぬ月の光く 一陶

ひより来て足れハお月もひより 陶亭

推叩の音叩や乃乃月 卓堂

極系ハ鞠の中や乃乃月 其雄



掛所裏月



横井山

横井山

万場川の東岸
横井村より

角力危くあつてかゝる月のあ
卓堂

江邊横井里連綴有林丘東望青山秀西臨碧水流
為永

汀沙人跡絶松樹鳥聲幽風景盡詞客何如此地遊
季廣

横井山松の下風さゆる花万場川系よ子もくまう
敬一

飄々として移るあつて横井山あつてまうてきる松陰
行逢

よりとて横井の山よまてまうて下りえつてまの子旅
在宣

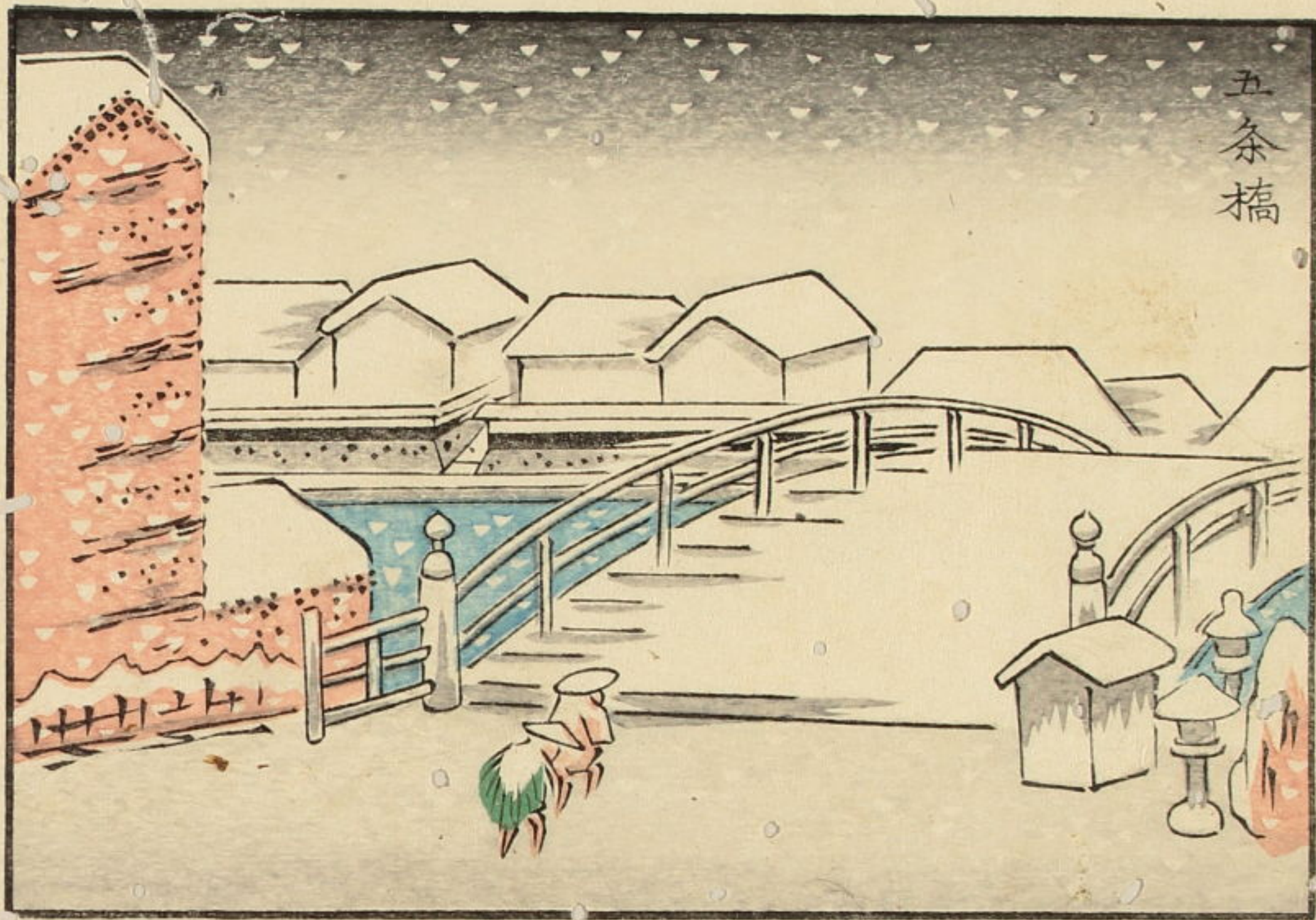
川流のひろくもたよつて横井の山れ秋の夜の月
顯竜

横井山松吹風よまてまうて川よひくく都々々
李曠

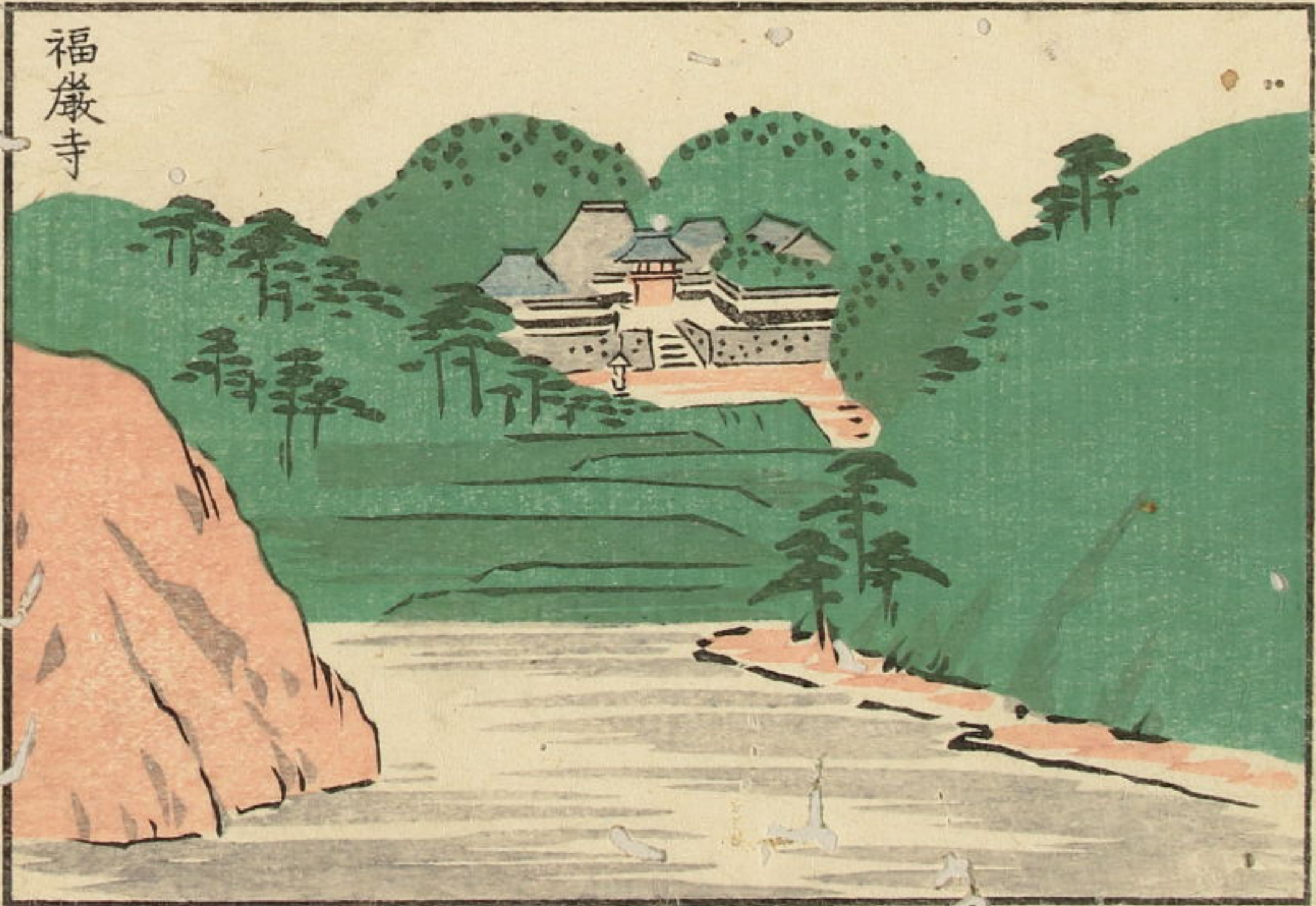
流流よまハ涼ふ——まの月
李曠

五條橋雪

五条橋



福巖寺



目上六

水廻欄干月光清五條橋頭画不成疑是水涯江上
雪連舟如巷寂寒情
康保

白妙の雪は本の房に初めくはけぬのこころはさうらうり
昔とめて夕顔のくぬお橋橋母のく白きと糸のうけ
粉ふらりて又吹らるやもー乃雪
長彦
夕雪てあるふりり町の方
有秀
まろくとも口のりりり言丸け
阿籟
ねい今よやう小除りり橋のゆき
其雄
旅ふれ〜人のけまや橋の雪
卓堂
上窓ハ雪のまうりややケ
黙烏
何人の通りー路や橋乃ゆき
兵樂

福巖寺

春日井郡
大草村あり

粉壁朱樓紫翠間香風滿池。隔塵寰。疎鐘清磬音初
斷。別有松聲盡日閑。

百信

ふくこむしーとふこむしーとの上ふとて
あけこけくくさきんーもふまりりむくののぐれ茶のいありハ
かくとれそてあささふちのうけひのあふさるる月影

晨業

白粥よありつく寺のまくれは

籟一

郭ふふくや一吹ありも

雲海坊

栗本人磨塚

栗栗郡
河田村あり

こゝれてもねちりうせひ名はなそそふ栗の落りがつきとこれ
是中のそくと経て名はなれも今ハ多とそふ人しそー
年終つ名はは里の口は路はちけいもれぬ人磨の塚

重伴

京井軒

圓什

合上七

ふとせふ人磨塚のまひーきふありねとそつ寺に後

栗壠

経は括む中と系よれ、厥のれ

雀叟

人丸一スをそも、れ秋の月

春草

大池の紙鳶

春服已成三月、天香蔬摘、夕陽前池邊、兒女如蟻

九奉

陳占断東風弄紙鳶

蘭泉

人背東風放紙鳶春光別在大池邊霞間銀線三千

秀樹

丈比較遊絲太超然

利恭

きとひあふ心の教えあひ代はまめきぬししろのふも
きしりきや大池せつふあこころいいていうそりう風よき
そちの風よきわいて大池のそあよけくやたうまうそ

清茂

比の若れ麴の夢をたせりり 沼の外風うせよのむそ
 滋河何うのそそ三保の杉原とふーハ大池の夜風も
 毛風と大池あうりのう移の波たふと揚ふのあふ草畑
 祇宿の海れあひせしめて大池さうつゝ扇の風やうの夜
 池 庭とまひく虹やいりのりり
 大池やゆさうふ 凡中の動きうり
 登り 風 韓 信々 名よ 似たりりり
 子 傳ひの 歌ー 掛るを 凡 中
 上り つくすての さこきや 凡 中
 石よと子れうーろきう 新 折 外
 比水の庭 うき 新やいりのりり
 便館 七三彦 長彦 亞紅 蒼洲 一松 陶亭 一陶 春松 因南 其雄

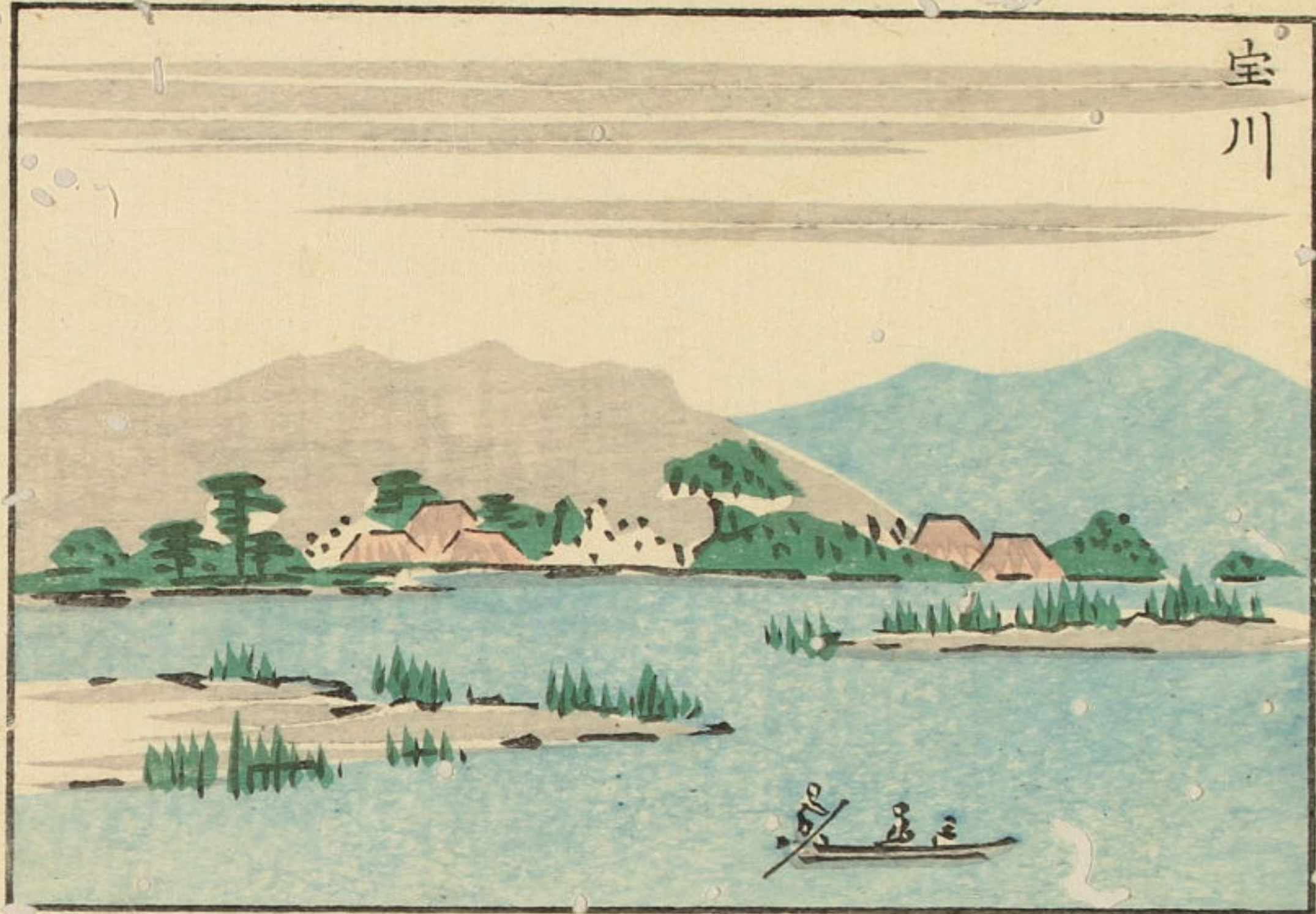
人磨場



大池紙鳶



宝川



清須花火



寶川

偶携兒女試閑遊
麥浪偷、四月秋舊雨、雲吹新雨
櫟齋

去南村水接北村
流袂歌無曲、昇平樂管笙成群
午

影休初暑生
衣微覺倦、半途借得柳陰舟

萬間吐吞水作湖
烟波渺、浴輕鳧古來何事呼為
寶陽

寶因此村、溢酒無

水浮斜照碧油、菽渚蓼汀望月
秋柳外歸漁、鷗世
介

界艣聲伊軋
遡寒流

君、代の光りもよみて宝門流
色の赤れ民も申さけ
實惠

清須花火

門波のきりぎりす
あつる月影をちりけ
はなふらむを火水
道直



春敲門



宮田堤

宮田堤

堤より啼泣虫の音ききし津の宮田のききし柳ん

吹れては月よ丸うく柳うふ

言の泣ききくすえて松尾む

暖きくくめや悦と風りこひ

そのうちには地は本宮川行幸の宮舎ありしに
今ハ名のみありて林をうらぬ亥に素物
多しとゆとありぬと古人の羽むたぬと

水秀の中ふ痛つや小お砦

眼のとくくけハ果外一重比山

早尾渡

山鐘敲止月猶残輕泛孤舟渡急灘這裡回頭賞詩

栗唄 其雄 静喜 鳥朝 三輪堂 三輪舎 實惠

長田

早尾渡



八事山

思満身霜氣曉風寒

いよりのいよけ子尾のけしきあはれ涼生て神ぬれぬるふ
かゝ樵のそやどのそより芳とあてとこり河ぬくもる人

義周

んはせハハるこたけ啼ぬ鴨の群

茂東

芳もれてあよりまゝ竹

其雄

系て水船や子尾のそりゆる

雷二

八事山

暖風晴日舊禪扉一縷香烟出竹飛紅藥洞龕僧入

坦道

定花光照着福田衣

寺門滿灑晝陰八事山中紺宇深塔影僧歸盤石

君政

徑鐘聲鳥起松林禪床澗默甘趺坐方丈幽談協

素心聞説奮魯開馬谷南溟萬里此登臨

雪かーむ重のまつれそ月夜
 為晴やうすこ交めく山の石
 森附をや招く梅雪の一あしし
 維子啼やとられ谷も新烟
 於ひ来て寺より一松の秋の雨
 傾き一口の節のりる岸紫水
 咄うゝひ尾上よ麻の言きう子
 廣庭のま中吹流る落葉うれ
 松簞りよ竹やハ事のやうきん
 茶のやハハ方よ消てハ事一山

一松

茂東

梅里

思文

梅樹

鳥朝

藍川

秋湖

吳樂

蓬南

一松

白鳥の筏

千辛萬苦出蘇山巖嶽崎嶇江海灣無限世間華屋
 者詎知風雪獵潺湲
 岨峽良材天下傳牛山之美豈齊肩下河絶海無量
 筏日夜追潮至堀川

風文

蘭泉

けりよたの筏とてまら小舟舟の山は深きとて
 浮舟といふつとて白鳥を以よる小舟舟の松本ありり
 入川沙とてりふき入筏とハけ白鳥の舟ふよとて
 舟といわしし舟一舟をれ筏とてこ舟の舟とて
 小舟種あり海き谷より流れ来てこ舟の山とて舟の松本
 本舟宗様とて舟とて舟といふ舟とて舟とて舟とて

有園

千秦

直通

延女

久足

長彦



白鳥河岸



深川神社

青竹と石つ、梓きん、袋、うら
 宮所や袋のうへ、ねう、い
 水のうら、松皮、約、小、考、う、旬

龜水
 萬渚
 圖南

深川神社

能戸村

深川鎮護幾千年古木蕭摻勢通天羅肆衆山如虎
 豹風輕密戸一條烟

清友

けりまきまのかきまのうきさひ、い、わ、れ、の、う、ら、あ、う、

正廣

浅瀬は口よりうみつるせの人とまきめくみそ深川の津

啓

我らら亦や川らんわりさういさきの内には、ぬり、あ、

守置

賽、沙、も、あ、り、一、系、の、一、茂、を

松涛

石、壇、の、う、へ、て、う、ら、う、う、塔、松、外

宜角

是のよ水れたまふや 五月晴
 ひとり ？ 夕子 花と月水鏡
 花よりよきいそきて 啼水鏡
 ありらりと問へば 出れいふ
 新くより水鏡 夕より 作屋比翁
 蓬南

曼陀羅寺 前花保村

叢林千古地門扁日輪臺瞻仰酬因佛慈悲攝俗埃
 山門一掃萬塵清柳影斜 鶯乱鳴微雨夕陽人不
 見僧歸花外暮鐘聲
 德瑞 雪香

本此寺の園のよとて 山の名ふ光り 留さぬ 法の燈火
 義住

三十一

いつこ 大げぬよりあちりりて 日臨山曼陀羅寺
 名(校)又此院の利益百業の利益ありんらんと

あまの月の光りきりきり みるのりきりきり
 咲きわたりのけをの言ひら くれり 穢らん 立根を
 首の糸の濁り小深ぬ曼陀羅寺 夕月のみまの
 栗壠 利見

雲真寺の花 白坂あり

山の清つらつら 泳ひぬ 花のありぬ 夕くれにこそ
 をさうり 首のうねり 花のこのけをよむも
 法佛のゆきよかききり けのあまの 人やる
 白坂のよきもきり けのあまの 寺
 新くあまのきり 泳ひん 花のきり
 花をてんも けのあまの 賢増

保右 正明 豊信 伯城 大阿 賢増



雲真寺



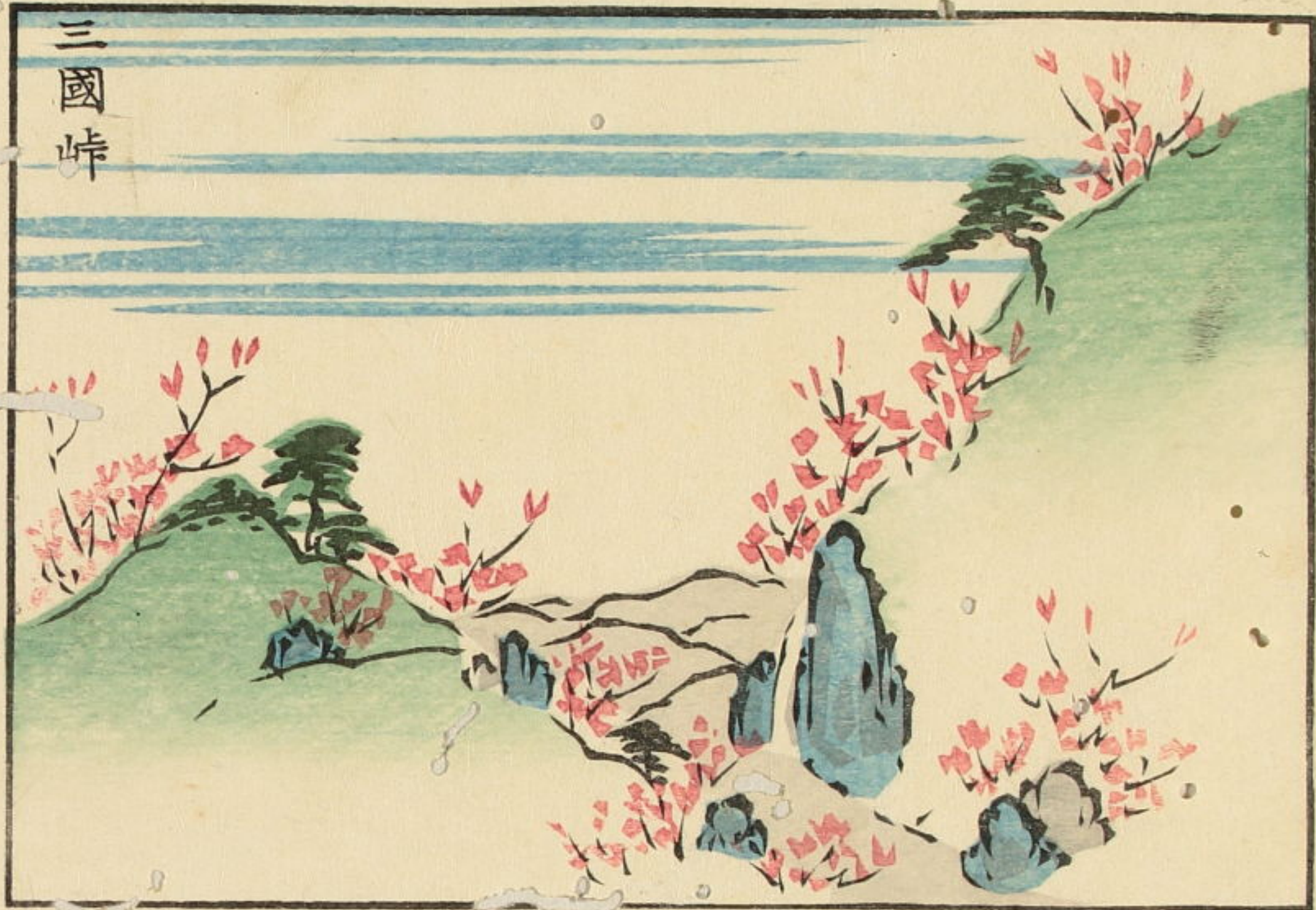
姫ヶ茶屋

姫ヶ茶屋の春雨

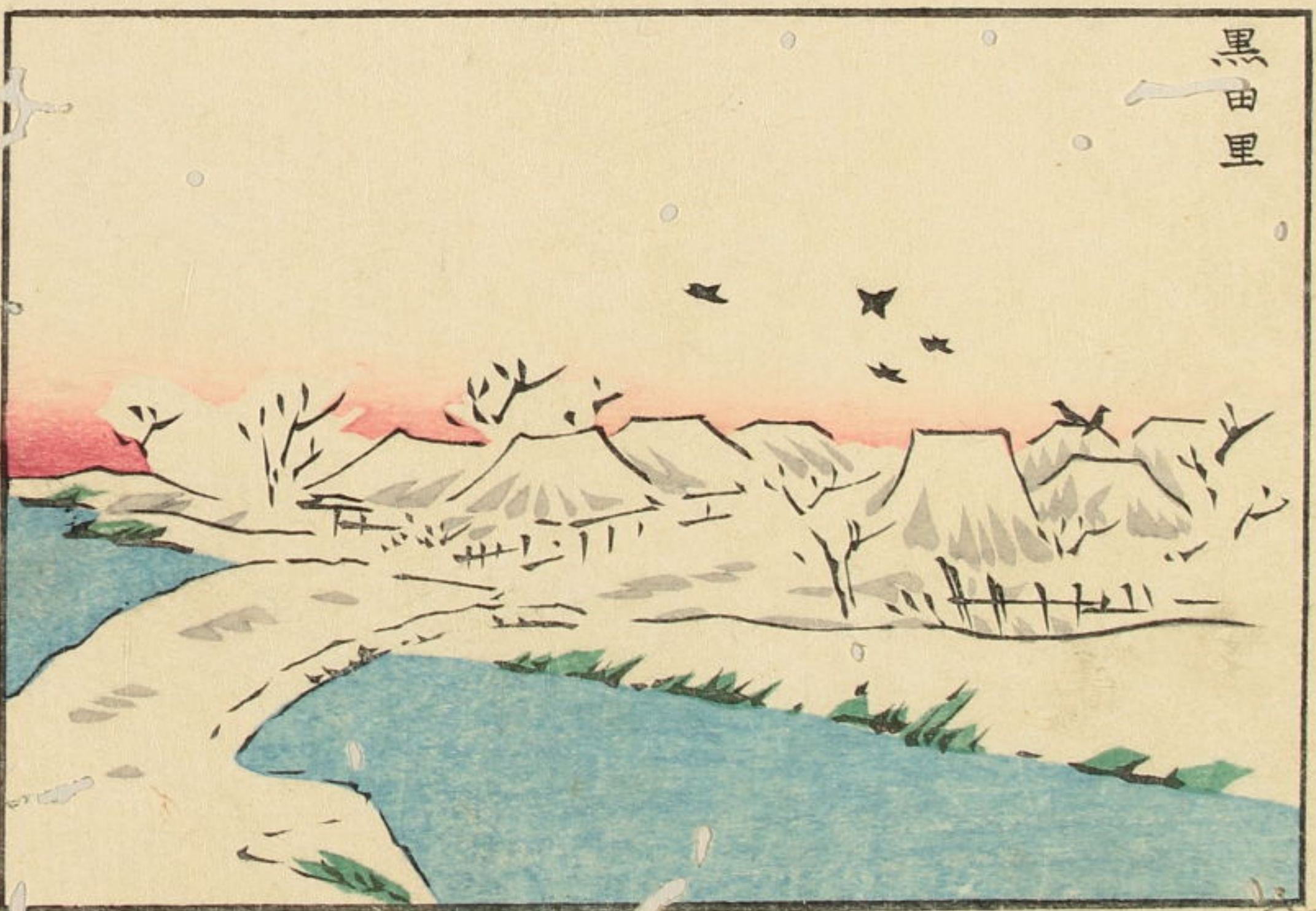
鳴海家の北の丸
田畑の字あり

おきくつら松が...
 草外...
 影るの...
 夢と...
 入うけて...
 春の...
 けは...
 夕ま...
 去り...
 美...
 山...
 雨

全
 鶯室
 一松
 一陶
 重伴
 雅茂
 好道
 猛勝
 秋湖



三國峠



黒田里

三十八

春雨や上野の松もみづぬき
 春雨や上野の松もみづぬき
 春雨や上野の松もみづぬき
 春雨や上野の松もみづぬき

英齋

村静

雷二

三國峠躑躅

春日井郡
 品川村あり

松杉疎密擁峙嶮血染成英丹嶂仰攀三國
 嶺金鱗俯指百尋城翠微送紅霞遠幽谷家燒絳
 燭明獨訝這中途羽客人間愧我曳虛名

乾齋

道直

重庸

補壽

英雀

三國峠の松杉疎密擁峙嶮血染成英丹嶂仰攀三國
 嶺金鱗俯指百尋城翠微送紅霞遠幽谷家燒絳
 燭明獨訝這中途羽客人間愧我曳虛名



鳴尾松



廣口川

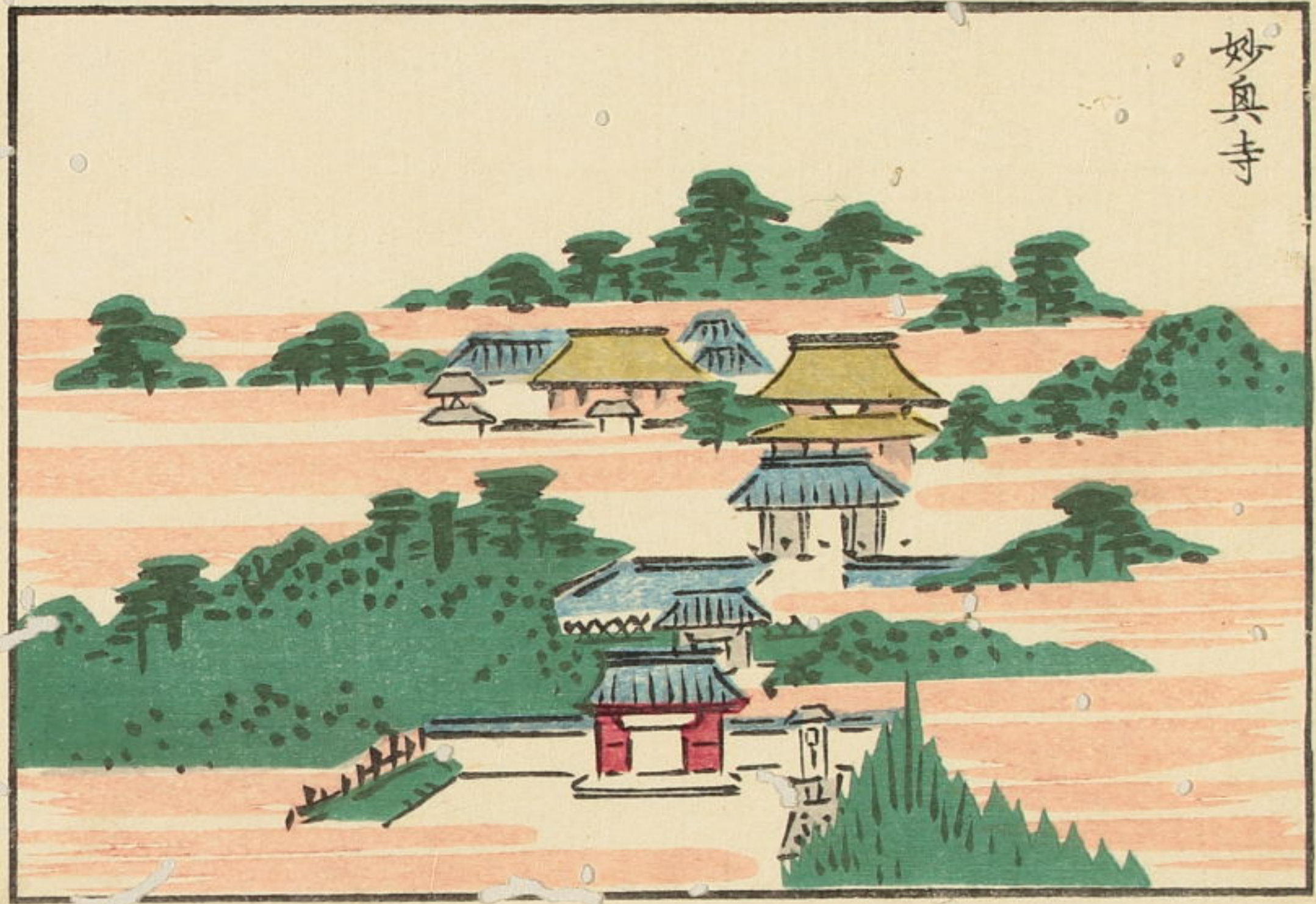
廣口川の鴨

祖父江村
小唄

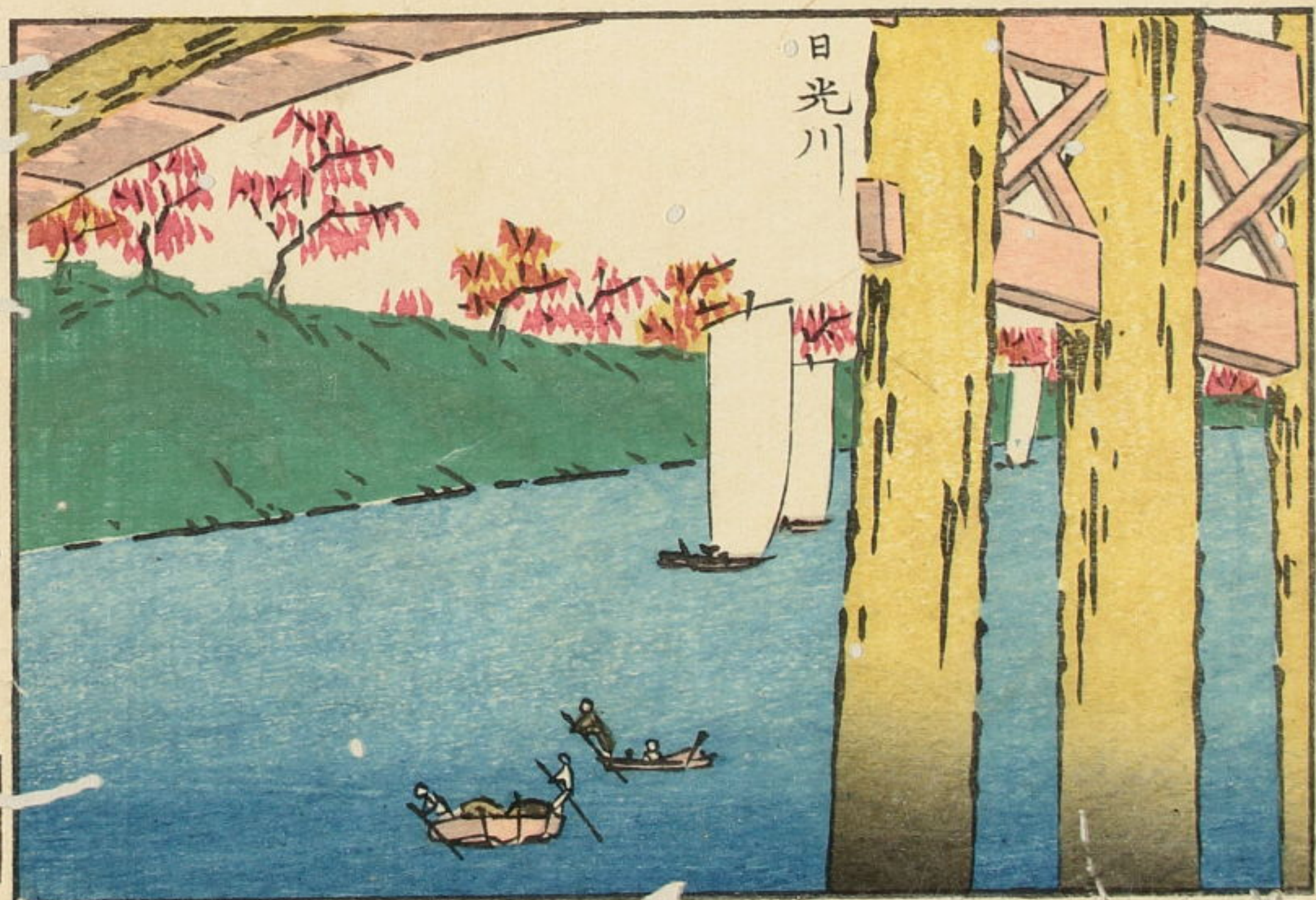
心子年ふとの松はさきえんせぬ君う代たりに
 月明るるのゆき新夜ありり
 わりそりりりふおん言のあし尾雲
 ちきまき英々や鳴尾の松乃う
 棹をいふあわたり廣口の川の浮鴨さうり申は
 君う代はわきりもあしぬ廣口の川はあれもむ鴨の影
 去菰ゆくひらさら川の風さむと下紫の庵ときぬあち鴨
 ちりてうくまうこれい花瓶の廣口川の鴨は汐ね
 豆 あは月の汐りて比の鴨
 かしまーうさこく小鴨や月れ豆

義任
 金毛
 一松
 雷二
 南景
 正有
 貞足
 箏彦
 紫風
 夢楽齋

妙興寺



日光川



妙興寺

妙興寺村

傳聽飛州良匠名感看門閣舊時楹由来不是尋常

惟孝

地松自青水自清

古木森々宿暮禽白雲長伴寂寥心欲尋幽徑坊僧

雪村

定一磬依微落葉深

名もなき一の座れとるくまの法の水法き寺

秋隆

あゝさへも枝りきりきぬ木の葉か

醉雨

管沙るあもかゝんであまうれ

静喜

ひりよきりきりきりきりきりきり

甫岳

日光川の櫃

長堤三十里霜樹展丹霞布帆鷗様白遠影没天涯

百信

種深此地方開土多少景光初覺新紅葉經霜凝織

釋照潮

錦白雲帶雨恰飄鱗一泓從木曾山嶺千里入蓬萊

海濱偏動吟情風水色橋頭佇立往來人

紅葉映橋若朱塗コトニ オシキアラス自顯日光名

便館

一入ハ川の多よりや沸つらん大いふきーのりち紫

直政

くれやすき夕日の光り川をひのりみちふたー砂りりや

大成

川ももろとろのゆるくあつて日れ光りそよ極の下うけ

千尋子

中る照る日の眼さきや極もみち

砂郊

あ節のまはてまこありそー紅葉

花洲

祐福寺 祐福寺村

欲知千古好為歩此崔嵬玉樹十圍翠縱橫登殿臺

牛遊

三五世

玉杉の山もまはれぬん老葉の多きさきり
け寺の麓もまき苔むしてみせやるのむす川の山

寿久留

裏門へ森のまて啼月おくれ

永成

大楠 大楠村

劍村有老樹耳食不知年匹如扶桑木遠懷楠氏賢
千年長練拂雲枝經歷戰爭南北時曾有英雄渠作

宝陽

姓勤王事歌樹増滋

桶木もさけりさうてさんせおさきけき里の井垣

重喬

ありののりやあがりてまはし

免農

雲峯松 横根村正親

光雲峯上龍燈松下檀林法雨濃想是出魚逃苦

實惠

海朝昏一百有聲鐘

月よりも彩を帯けてゆくえりそのまはれ、松の木のさき
かりやの影をふかき、松風も少法のまよありせてや吹

意然
守胤

夜寒橋

蟹江新田佐屋
川より

一道长橋架鞆川縮膝蒲岸碧漪漣 八間三伏雖如
熱水氣猶寒半夜天

晋菴

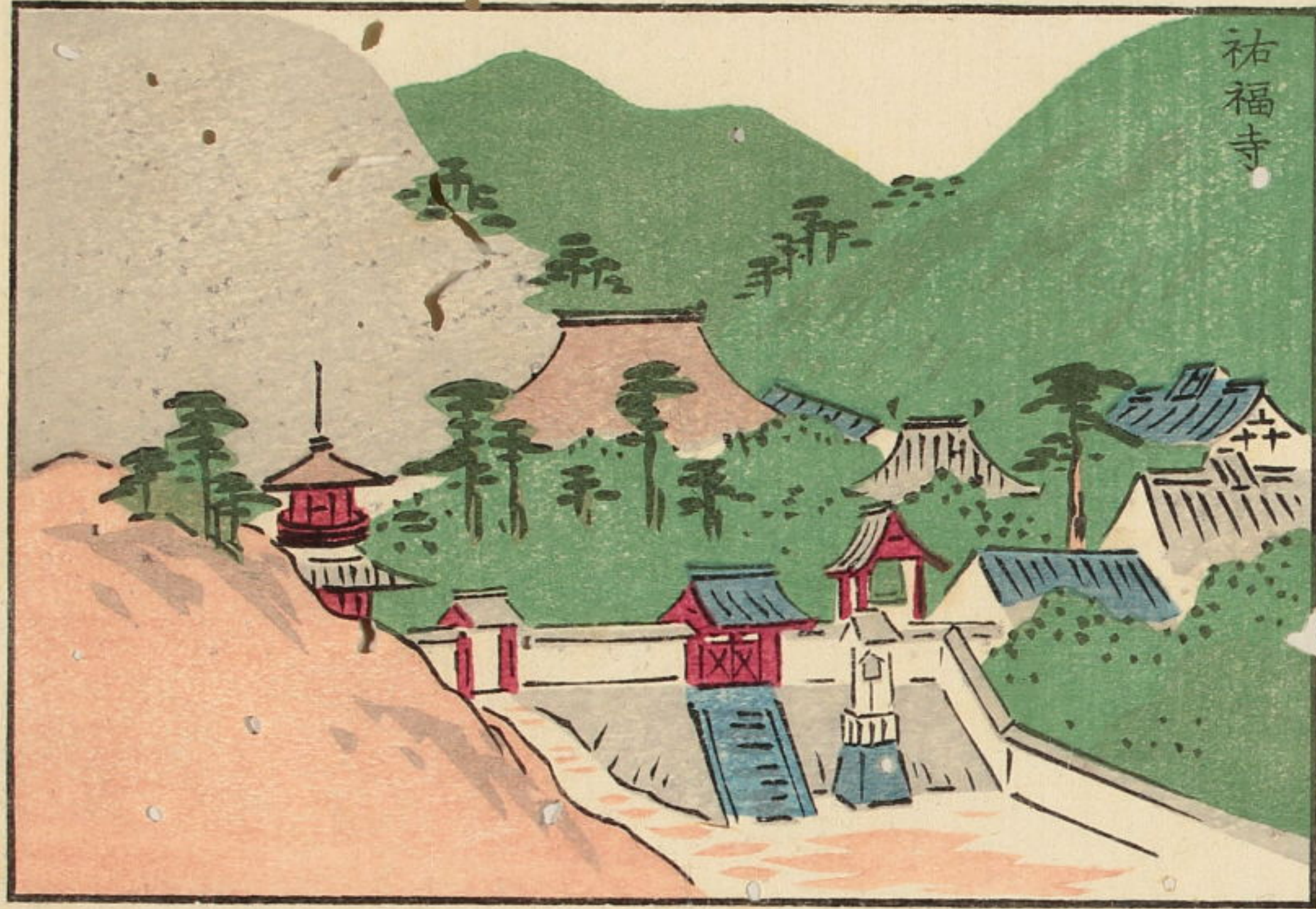
橋成安穩往來人岸腹蒲蘆碧玉均頼有聖明君在
上人傳寛政富平津

正國

孤あく松木のさきもゆりてく朝露やしきの松橋
さえその影さの松乃川風よ涼きささる夏の夕ぐれ
きのうまて涼し人のあまもゆる松きの松れ松の夕暮

信之
木阿
邦光

三上廿三

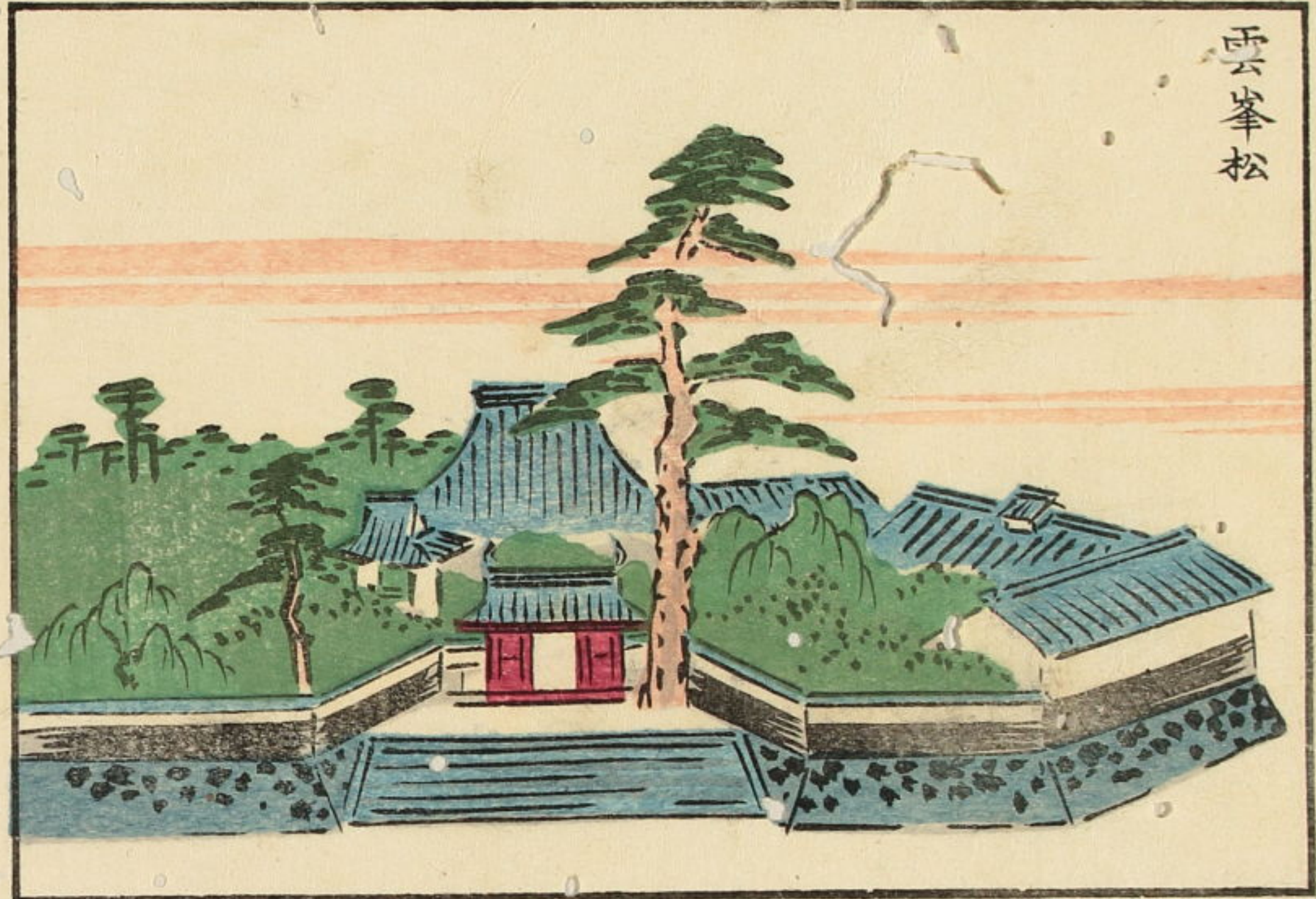


祐福寺

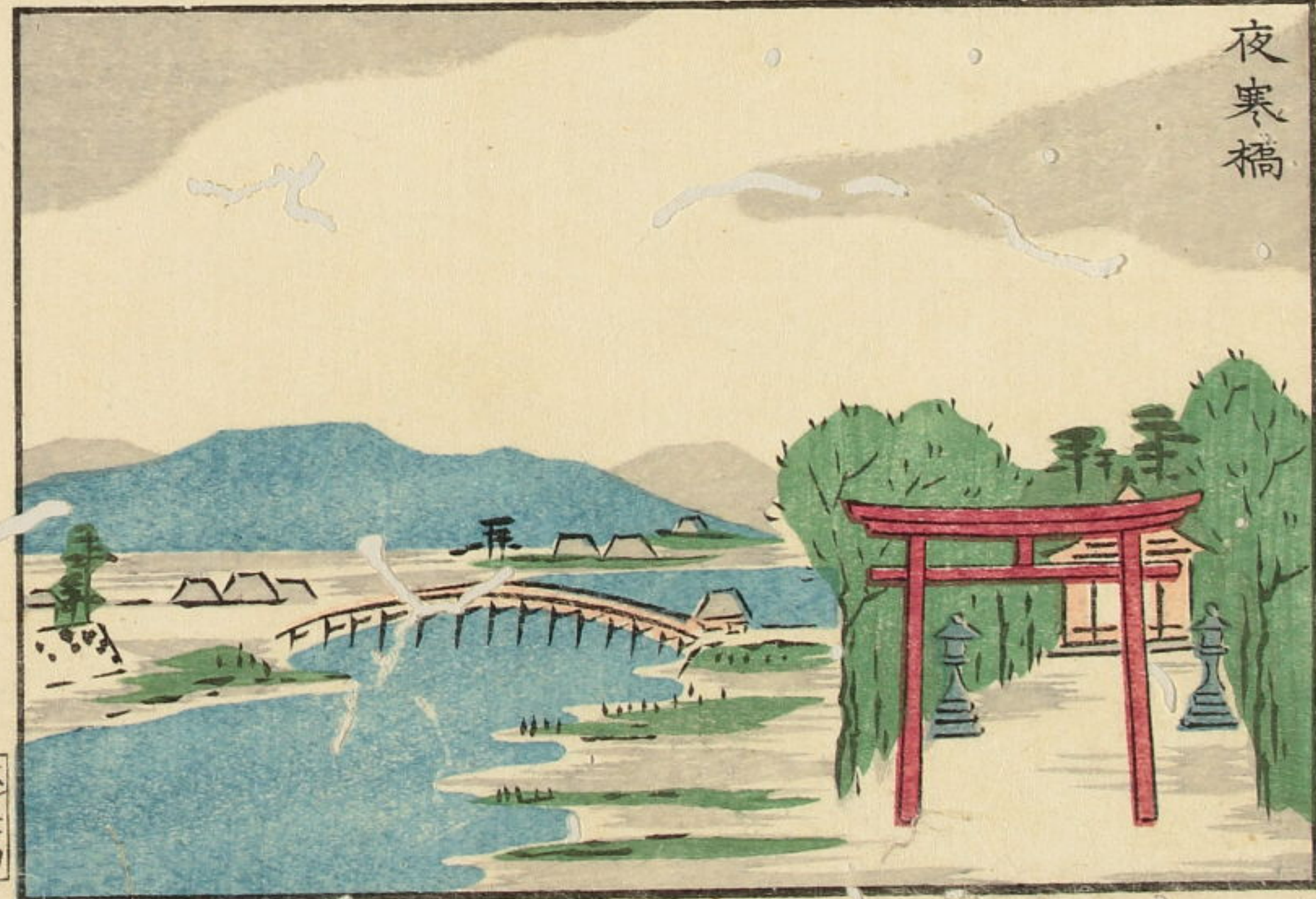


大楠

雲峯松



夜寒橋



七ツ寺花

珊瑚殿櫻花 富山十景之一

珊瑚殿外滿林花好倚胡床喫細茶
落佳人添素影千金一刻在禪家

紫山

七寺花下三日同諸友作

時余歸自江戸於
羨濃道到于此故云

梅未全飛櫻欲開城南寺
好樓臺一簾水影和花影洗却汗湯衣上埃

藤城

峻嶺崇山背指來城中
上已且銜盃池亭是處聊脩
禊文字心腸幸未灰

全

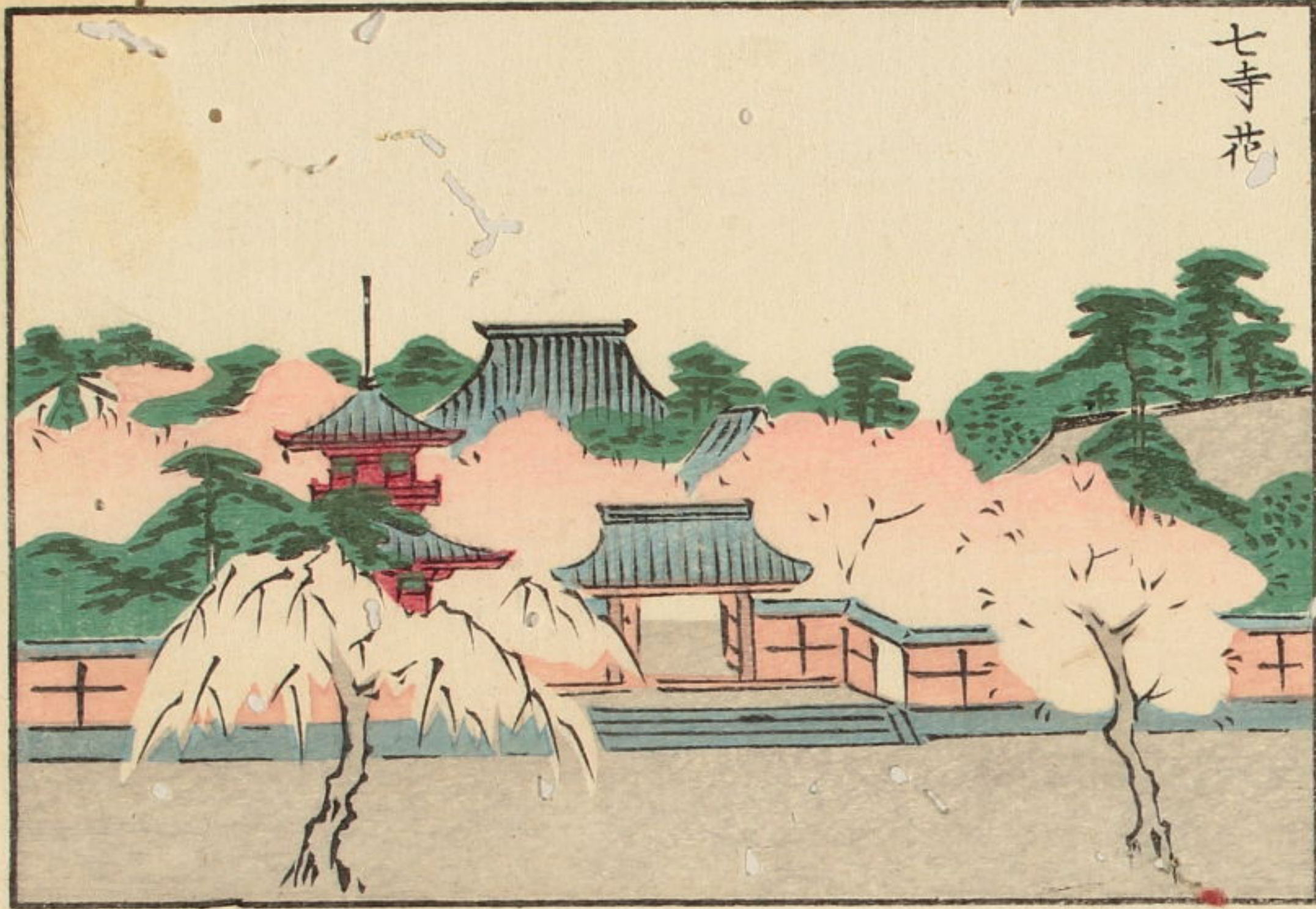
尋常蔬豆亦時新
雜香花邊酒入脣
浴有鴛鴦東篠
筍又來七寺醉青春

全

三月香城春可誇
淡紅妖白麗
煙霞仙園入望東風

清友

七寺花



善師野驛



ととやみのほもすえてもれのあ
 昔かほむをよせよしや 竹 証 霞 暁
 初 赤や 塙よまきハ 竹く 芳のあ 芦 江
 吹とてちりあふ花や 人乃中 露 井
 日 垂りてふもそねふのたよりか かの
 花 小すりの月のあふありおてまら
 英 齋
 尖 洋 ちりあふもろれぬ花え外 連 彦
 りハ 西にうれそよりありささくし 亀 水
 花 むとそてろそえはれ人の妻 楚 山
 うくくときまこ二りやそれの友 松 月 菴
 人 主のしそもあつれや夕さくく 朝 青

須成天王



寺本
八幡



三十一

善師野驛

をのきりまのてあや古塔り	呉樂
夕られとりきりやくもむら	常掃
ねむ所むよおとけや七ッ寺	國水
ちりむのほり序やあつら	山月
友にきて一なむの七ッ寺	山樊子
りひふいりきせてむるふ	如泉
はむりして清をすれえうま	うら
山里や梅うきあもれてうき	鳥津
沃るの霧附知はやまに中	東宇
朝湯きて清身換込てまのあ	一陶

須成天王社

幸いすうりの林れおあわさきもそそり
一節はうらうらのいさげさきりのおよみさきさき

赤いかに葉の代拂ふ彦紫うれ
足代と一枝 層々つり葉小

寺本八幡社

白雪紅暎西壁林風光一倍入
裡清絶復無塵點侵

あつてもそよふかのねれ枝にそよりけき
その人れらうの夢も拂ふりやりの葉のねのあし
さうり 彩や月ふもまうよきり

大成

正有

列根

綺川

藍光

嘉寛

玄豊

左柳

三上正六

長浦

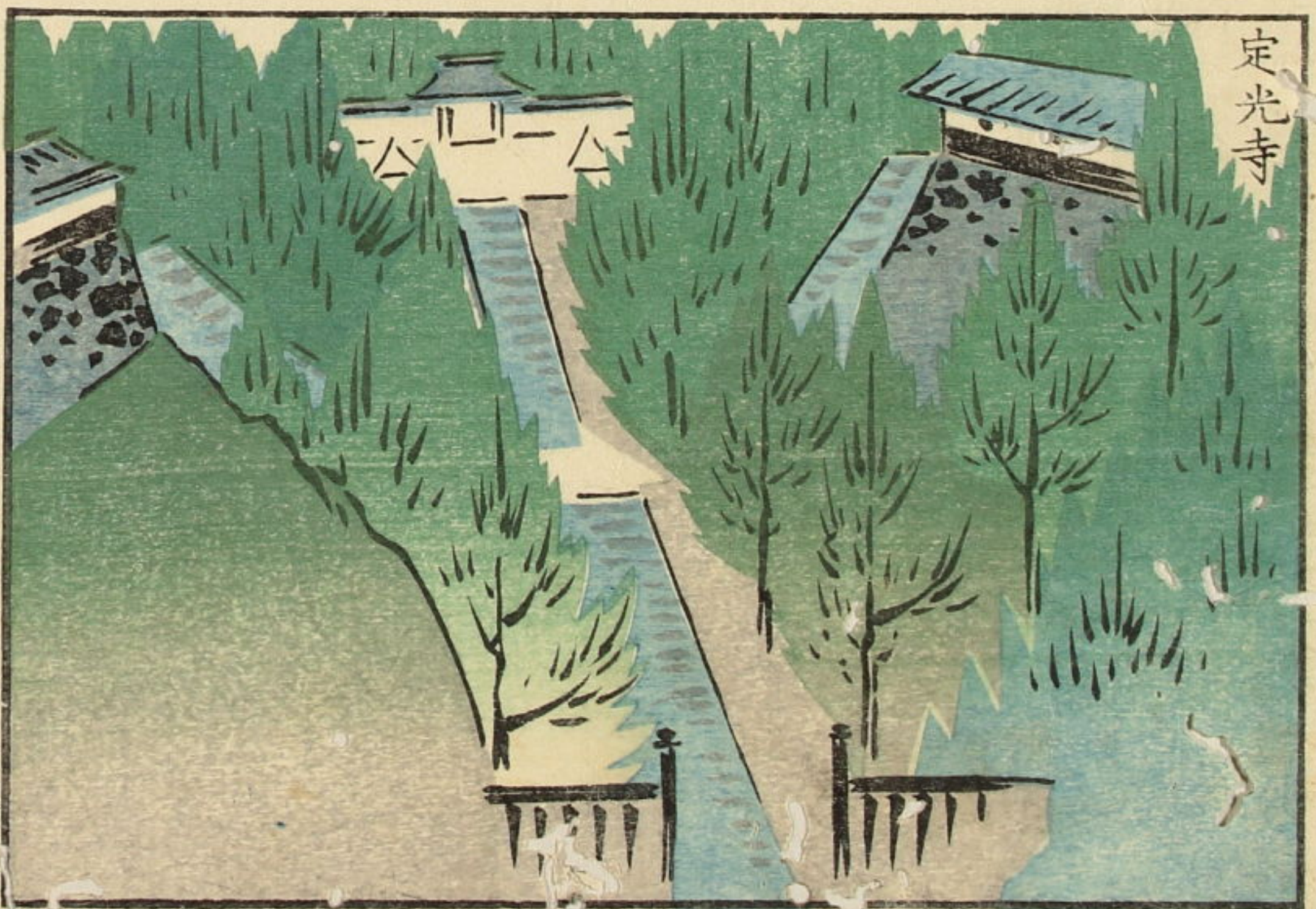
釣舟三五出長浦呷嘍櫓聲西又東
定漁燈碎在疊波中

橋菴
茂元

在大仙の君知多郡よのたまひりり
よてはまうけなるとて長浦のりけり

まうらうあねなうめい長浦のりきり代きりあふあ
あせのふうまてくく御のむしひりり長浦のうらうとて
りりくくまの長浦うきりり言てそあうりれ約うり
あきと吹あけけり風もるかどとて長浦の候
うらうとあむり彩も長浦のり干にひうまきり見が
るはせいのり水れうらふ底とつるあ人のつり船

正明
綱煥
正寅
嘉寛
文矩
程治



あゝ波の打上てりせ海岸うら
霞暁
ほろの舟よきりや新乃雨
春松

萩原川

行樹風清夜平川月白時放舟孤客趣料得有鷗知
助護
江流環驛曲爽氣滿涼柳光餘秋色葭枯帶晚烟
弘道
鷗眠紅蓼外雁落白沙前不識誰家子高歌棹釣船
秀樹
冷りて城まの茅と見ゆか萩原川の細き流れハ
綺川
江のまをつよか糸屋の小まを
柯笛
原れをやういつしそりそんと水

荒子藤

いづれのあゝのゆれ面影のゆりてそりよ夜流の赤
刺蓆

700
色副
中喰ち

をあらわし人しもたしん友達のつらうこころぬる名をより
 立入りよと来てせんまなす風もあつこの里に旅も
 もねわく松ふりけて暖をとりあつまのくまのまむけ
 此方の風よらむやうらのくれ
 定光寺 皆掛村
 ぬくれ多たしんすえて山仏の法れあやの契とあうき
 寺の名れ早りもあつてたも程さくふ光の法の特火
 本魂ふもすや陸と杉の契
 海くけり石のあがりや衣文
 落る葉の枝よまひくりわらふ
 三省
 逸齋
 思文
 賢増
 南景
 市雪
 長彦
 宗利
 千尋子

名區小景二編卷之上畢

